

2008年5月1日

(第20号) 初夏号

獨協医科大学病院だより

— Dokkyo Medical University Hospital News —



日本医療機能評価機構認定病院

平成20年(2008年)

5月



第20号



病院長挨拶

獨協医科大学病院 病院長 北島 敏光

病院長として、一言ご挨拶を申し上げます。

当院では、最新の医療機器を備えて、一流のスタッフによって最高の医療を提供すべく、野原 裕ならびに平石秀幸副院長と共に医師、看護師、薬剤師、技師、事務職員など、あらゆる職種のもものが一丸となって努力しています。お蔭をもちまして、当院を受診される患者様は県内だけでなく、北は北海道から南は沖縄まで、全国から診療を受けるために来院されます。また、東北自動車道と北関東自動車道を利用して東京からも患者様が救急車で搬送されることがあり、新聞でも大きく取り上げられました。さらに、海外からも治療を希望されて来院される患者様がいます。昨年度に当院を受診された患者様は延べ人数で65万人以上、また入院された患者様の数は延べ40万人以上でした。今後とも、変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

当院の診療科は内科系が12、外科系が12、また中央部門が26あります。当院では、特定機能病院として地域医療に貢献すべく、多くの施策を行なっています。ここでは、最近問題となっている産科、小児科、救急医療に対する当院の取り組みについて紹介させていただきます。まず「総合周産期母子医療センター」では、産科医と小児科医が24時間体制で緊急患者を受け入れ、ハイリスクの妊娠と出産の可能性がある妊婦の母体と胎児ならびに新生児の健康を守っています。実際には切迫早産、前期破水、重症妊娠中毒症などのハイリスクを有する妊婦を受け入れ、妊娠中から集中的に管理して元気な赤ちゃんの誕生を図り、出産後の新生児に問題がある場合は「新生児集中治療室」で総合的に治療を行っています。また、「子ども医療センター」では栃木県が策定した「栃木県小児医療整備構想」に基づき、高度な医療機器を設置して、小児医療の専門医が乳幼児から思春期の子供までを対象に専門性の高い医療を提供し、初期あるいは二次医療機関では対応が困難な重症患児を治療しています。また、患児のご両親とも協力した医療を行うために、ご家族からの相談を受け付ける面談室や指導室を準備して家族への支援を行っています。さらに、センター内には患児の遊び場としてのプレイルームがあり、子どもにとって不可欠な教育については院内教室で学習させます。「救命救急センター」は、栃木県から第三次救急医療期間としての指定を受けて、緊急性の高い急性心筋梗塞や脳卒中、また交通事故による重症外傷などの複数の診療科にわたる疾病など、幅広い病気に対して高度な救命処置を行い、患者様の生命を守っています。

その他には、がんの早期発見に有用なPET/CTカメラを2台備えたPETセンター、がん患者様を各科と連携して総合的に治療する腫瘍センター、睡眠障害に苦しむ患者様を治療する睡眠医療部、認知症患者様に対する保健医療・福祉サービスの向上を図るための老人性認知症センター、ある種の脳病変を切開することなく1回のピンポイント大量放射線照射で治療するガンマナイフ、短期あるいは長期人間ドックなどを担当する健康管理科など、当院では一般の診療科以外にも多くの魅力的な診療を提供しています。専門外来の受診を希望される方は、近隣の担当医の先生にご相談いただき、当院へのご紹介を受けてください。

これからも患者様のいろいろなご要望に十分に応えられる病院として発展できるように努力いたします。

3テスラMRI稼動開始！

(放射線部 部長 楯 靖)

MRI (magnetic resonance Imaging、磁気共鳴画像法) は体内の画像情報を得る方法のひとつです。MRIは、放射線や超音波の代わりに、磁気と電波 (ラジオ波) の働きを用いて画像を作ります。電離放射線による被ばくが一切なく、しかも精密に体の構造や機能を画像化できる点が大きな特徴です。当院放射線部では、これまで1.5テスラMRI装置3台で検査を行ってきました (テスラ：磁力の単位、1テスラ=1万ガウス)。装置の性能は磁力に依存するところが大きく、撮影する部位により多少の差はあるものの、強力な磁力を有する装置ほど質の高い画像が撮影できると言われています。

このたび2008年4月より、最新鋭の3テスラMRI装置が放射線部で稼動し始めました。我々も期待以上の画質に驚いています。これまでの1.5テスラ装置では画像化できなかった構造が見えたり、細い血管が描出されたりすることで、詳細な情報を提供でき、病変の検出、治療方針の決定などに役立つと考えられます。

「強力な磁力」とお聞きになると、何か怖い感じがするかもしれませんが、体内に何も金属が入っていない方の場合は、心配いりません。生じる可能性がある症状としては、ふわっとしためまいのような感覚や軽い吐き気 (三半規管の刺激による)、手足を軽く触れられたような感じ (末梢神経の刺激による)、撮影中に暑く感じることもあります。これらの症状が検査後も続くことはありませんが、気になるようでしたら、ご遠慮なく撮影担当技師にお知らせ下さい。なお、装置の中で頭を振るとめま



いを生じやすくなるので急に頭を動かさないようにしてください。また、磁力が強いために撮影中の騒音が今までよりも多少大きく聞こえます。検査自体はこれまでの1.5テスラ装置の場合と同様ですので、検査中は体を動かさないようご注意ください。

体内に金属性の医療機器などが入っている方は、3テスラMRI検査ができない場合がありますので、検査前に必ず主治医にお伝え下さい。

身近な病気 Q&A



鉄欠乏性貧血について



血液内科 講師 新井 幸宏

鉄は血液を作る時に必要な成分のひとつです。通常の食事を摂っていれば十分に補給されますが、鉄の需要・供給バランスが崩れると鉄欠乏状態になります。

鉄欠乏性貧血は貧血の中で最も多く、一度は遭遇する病態です。適切な治療を行うことが重要です。



鉄欠乏性貧血の原因は？

大きく3つの原因があります。

1. 鉄摂取量の低下: 偏食、過度のダイエットによる摂食障害。胃切除、吸収不良症候群等の病気による吸収障害があります。
2. 鉄喪失の増大: 胃・十二指腸潰瘍、憩室、痔、消化器がん等の消化器疾患。過多月経、子宮筋腫、子宮がん等の性器出血。発作性夜間血色素尿症における血色素尿症があります。
3. 鉄需要の増大: 小児・思春期の成長や妊娠・授乳があります。

鉄欠乏性貧血には原因が存在します。特に成人はがんの存在を念頭におく必要があります。



どんな症状がありますか？

頭痛、めまい、易疲労感、動悸、息切れ等が多いです。顔色が悪いと言われた場合では貧血があらと考え、血液検査を行ったほうがよいでしょう。慢性的に経過した場合は無症状のこともあります。体内の鉄不足が著しいと消化管粘膜が萎縮します。また爪の中央部がくぼむさじ状爪、壁土や氷を好んで食す異食症を認めます。このほか舌炎、口角炎をみることもあります。



どんな検査を行いますか？

通常の血液検査で赤血球数やヘモグロビン値の低下があります。このときに重要なのは赤血球の割合を計算する必要があります。鉄欠乏性貧血は赤血球が薄くなるため平均赤血球容積(MCV)が低くなる特徴があります。また、血清鉄および貯蔵鉄を反映するフェリチンの両者が低下します。



治療法は？

まずは原因疾患の治療です。次いで不足している鉄を投与します。経口での鉄剤投与が原則です。100～200mg/日を就寝前に投与します。服薬期間は約4ヵ月飲んで頂きます。



日常生活で注意することは？

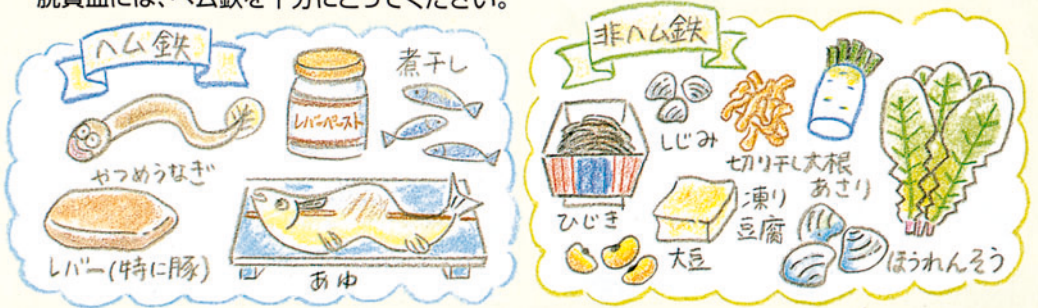
途中で服薬を自己中断すると再び貧血となります。一定期間の服用を心がけましょう。鉄剤の吸収を良くするためにビタミンCを併用すること多いですが、逆にビタミンCとの併用で胃腸障害が強くなることがあり、注意が必要です。鉄剤を飲んでいるにも関わらず貧血の改善がない場合には、造血器腫瘍の存在が考えられますので血液内科を受診してください。

●予防のために

毎食、主食、主菜、副菜を組み合わせバランスよく食べるようにしましょう。



食品に含まれる鉄分には、「ヘム鉄」と「非ヘム鉄」の2種類があります。魚や肉に含まれる鉄分がヘム鉄。野菜や穀類に含まれる鉄分が非ヘム鉄。ヘム鉄は非ヘム鉄に比べて、数倍も腸での吸収がよいのです。脱貧血には、ヘム鉄を十分にとってください。



感染を防ぐために

感染防止対策課

感染防止対策課は、感染を予防し、感染を防ぐにはどのようにすればよいかを考え、またさまざまな視点から日々活動しております。その活動の一端である感染防止対策講習会(写真)を紹介いたします。この講習会は、去る20年2月15日、関湊記念ホールで520名以上という多数・多職種の参加者で開催されました。テーマは3病院(越谷病院、日光医療センター、本院)の感染対策で、

1、「事務から見た感染対策」は、獨協医科大学越谷病院外来課課長篠原君夫氏の講演。感染対策は、感染を予防することと感染発生時の迅速で適切な対応が必要で特に効果的な対応には、病院利用者(患者様本人・そのご家族、ご面会の方々などの見舞い客や出入り業者までを含めた外来者)、医療スタッフや院内各種業務担当の関係業者(清掃、クリーニング、リネン担当等の方々)の意識改革が必要であることを説明され、対応や改善の事例を挙げ、また予防に係る費用などについて比較検討した結果を提示されました。

2、「腸チフス・赤痢アメーバの体験から」は、日光医療センター看護部村上妃沙子師長の講演。腸チフスは、国内の年間発生数は約60症例程度の珍しい感染症で海外渡航歴のある患者に多い。外国に行ったことが無い。胆道系疾患の既往歴がないなどの諸条件と職業から考え、業務終了後の手洗い・手指消毒などの手の衛生に関する知識の欠如が、今回のチフス症となったものと推察しました。赤痢アメーバも生活環境の衛生的な向上と共に発症例数が少なくなり、近年では、男性同性愛患者や知的障害者から発症を見る比較的まれな感染症で年間約300症例中男性が約90%を占める。この女性の仕事もホテルのトイレ清掃作業を専門としていました。いずれも、診断の遅れが無かったことと適切で迅速な対応により、感染が広がることなく治癒しました。

3、「神経内科における抗菌薬の使用について」大学病院神経内科岩波正興先生の講演。先生は、研修中に臨床検査部、感染総合対策部、感染防止対策課で2ヶ月間研修。その後神経内科に入局されました。一方、薬剤部では、毎月各病棟・診療科ごとの使用抗菌薬の集計をしており、その集計経過から、神経内科および6南病棟では、広域抗菌薬の使用から狭域抗菌薬への抗菌薬の種類変更と使用期間短縮が著しく、購入薬価などから評価すると貢献度が高い。

感染の予防と防止は全ての国民の理解と協力、実践があって成り立つものとされています。出席者は学長、看護系職員231名、事務系職員128名、研修医等医歯系教職員65名、残りは薬剤師、放射線技師、検査技師、リハビリテーション部員、栄養部職員や保育所の職員、委託業者まであらゆる職種が参集しました。



市民公開講座 がん情報提供の会

腫瘍センター

3月1日、久しぶりに晴れ間がみえた土曜の午後に市民の皆様を対象とした、がん情報提供の会「がんを診断するとき“PET”はどうやって使うといいの？」が開催されました。当院のPETセンター、センター長・村上康二教授の約1時間の講演は大好評でした。内容は、Positron Emission Tomography；PET検査の基本的な情報から実際の検査方法や検診、被爆や費用のことまで画像を交えて多岐に渡り大変解り易い内容で、参加された方から「主治医に相談してみよう」「相談するタイミングや方法が解った」「PETが得意とするところばかりではなく不得意なところも教えてもらい正しい知識を得た実感がした」などのお言葉をいただきました。今回聞き逃された方にも情報提供をさせていただける方法を考案中ですのでご期待下さい。



また、会場である関湊記念ホールホワイエでは、情報提供冊子の回覧や配布、かつらや帽子などの展示も行い、開演前から多くの方々にぎわいました。

当院は、昨年がん診療連携拠点病院に認定され、国民、県民の様にがんに関する質の高い情報を提供し、一緒になってがんを闘い、克服していく拠点としての役割を果たすことを目標に取り組んでおります。その一部として、市民の皆様への情報提供や「がんになってもその人らしく」「病気と上手に付き合ひましよう」をモットーに患者会を開催しております。今回は患者様やご家族からのリクエストと乳がん患者会「リボンの輪」の皆様、私達だけが勉強させてもらっているのかしら？多くの方とも情報を共有したい”その声に感銘を受けたリボンの輪のボランティアスタッフの協力のもとに開催が実現いたしました。

今後も市民の皆様のご意見を反映させていただきながら様々な試みを考えておりますので、どうぞ皆様お誘い合わせのうえご参加下さい。



公開講座のご案内は、外来会計横の院内掲示版や
当院ホームページに掲載させていただきます。



PETについてのお問合せ先
獨協医科大学PETセンター
TEL 0282-85-1166
URL <http://www.dokkyomed.ac.jp/dep-m/pet/>



PETのパンフレットやがん情報冊子等の配布は病院入り口にございますのでご利用下さい。

〈情報冊子の部数には限りがございますのでご了承下さい〉

リボンの輪ボランティアスタッフとは・・・当院の医師・看護師・理学療法士
薬剤師・栄養士・事務職など多職種による乳がんチームのスタッフです。





ご存知ですか？

当院では専門看護師や認定看護師が活躍しています



高度化・専門分化が進む医療現場における看護ケアの広がりや看護の質向上を目的に、看護界の総意で資格認定制度が発足しました。1996年に専門看護師が初めて誕生し、翌年認定看護師が、1999年には認定看護管理者が誕生しています。現在全国の専門看護師(Certified Nurse Specialist)は238名、昨年は栃木県で初の専門看護師が当院で誕生しました。認定看護師(Certified Nurse)は3367名(栃木県42名)、当院でも7名の認定看護師と数人の候補生が活躍しております。

患者様・ご家族はもとより医療従事者の方々の安寧を目標に活動している当院の専門・認定看護師を次回から少しずつ紹介させていただきます。



(日本看護協会で特定されている看護分野)

専門看護師(9分野) **がん**、老人、慢性疾患、精神、小児急性・重症、地域、母性、感染

認定看護師(18分野) **救急**、**皮膚・排泄ケア**、**集中ケア**、**緩和ケア**、**がん化学療法**、**がん性疼痛**、**訪問**、**感染管理**、**糖尿病**、**不妊症**、**新生児集中ケア**、**透析**、**手術**、**乳がん**、**摂食嚥下障害**、**小児救急**、**認知症**、**脳卒中リハビリテーション**

〈**赤字**は当院で活躍している分野〉

資格認定者はそれぞれのバッジをつけております。



専門看護師



認定看護師

専門の教育・研修を受けた看護職への資格認定は日本看護協会が行っております。詳しくは日本看護協会のホームページをご覧ください。

●●●●● 編集後記 ●●●●●

風さわやかな、青葉の美しい季節になりました。構内の木々の緑に心癒される毎日です。

このたび壬生町観光協会により、病院正面バス停南側に、観光案内板が設置されました。町内の史跡、社寺などが地図・写真とともに紹介されておりますので一度ご覧になってみてください。身近な名所をぶらりと訪ねてみるのもよいのではないのでしょうか。

さて、今号の身近な病気Q&Aは『鉄欠乏性貧血』。貧血予防のために、普段の食事にも気を遣いたいものですね。カツオのおいしい季節。へム鉄も多く含んでいそうですし、今日のおかずはカツオなどいかがでしょう。

◆ 主な内容 ◆

病院長挨拶	2
3テスラMRI稼働開始	3
身近な病気Q&A(鉄欠乏性貧血)	4
感染を防ぐために	6
がん情報提供の会	7
専門看護師・認定看護師について	8



獨協医科大学病院だより第20号

〒321-0293

栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880番地

TEL 0282-86-1111(代表) FAX 0282-86-4775

<http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/>

発行年月日/平成20年5月1日

編集・発行/獨協医科大学病院広報誌委員会

印刷/株松井ピ・テ・オ・印刷